

那珂市議会全員協議会記録

開催日時 令和6年3月12日（火）午後1時27分

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席者	議長 木野 広宣	副議長 富山 豪
	議員 柿原 一和	議員 桑澤 直亨
	議員 原田 悠嗣	議員 鈴木 明子
	議員 渡邊 勝巳	議員 寺門 勲
	議員 小池 正夫	議員 小宅 清史
	議員 大和田和男	議員 花島 進
	議員 寺門 厚	議員 萩谷 俊行
	議員 笹島 猛	議員 君嶋 寿男
	議員 遠藤 実	議員 福田耕四郎

欠席者 なし

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 会沢 義範 次 長 秋山雄一郎

次長補佐 三田寺裕臣

会議事件説明のため出席した者の職氏名（総括補佐以上及び発言者）

市長 先崎 光

副市長 玉川 明

教育長 大縄 久雄

企画部長 渡邊 荘一

政策企画課長 篠原 広明

政策企画課長補佐 宇佐美智也

産業部長 浅野 和好

商工観光課長 岡本 哲也

商工観光課長補佐 水野 泰男

インターチェンジ周辺開発推進室長 橋本 芳彦

会議に付した事件

（１）複合型交流拠点施設「道の駅」整備推進事業の進捗状況について

…執行部より説明あり

（２）その他

・令和6年度議会費予算について

…事務局より説明あり

議事の経過概要（出席者の発言は以下のとおり）

開会（午後1時27分）

事務局長 それでは、定刻前ですけれども、皆さんおそろいになったようですので始めさせていただきます。

本日は、換気のため廊下側のドアを開放して行います。

ただいまより全員協議会を開会いたします。

初めに、議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 午前中から引き続き、議員の皆様には大変お世話になります。

また、写真撮影が思ったよりも早く終わりましたので、ご協力ありがとうございました。

この後は、1件の会議事件がございますので、皆様の慎重なご意見を伺いたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

事務局長 それでは、この後の進行は議長をお願いいたします。

議長 ご連絡いたします。会議は公開しており、傍聴可能とします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は、ご配慮をお願いします。

ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、これより全員協議会を開会いたします。

会議事件説明のため、市長、副市長、教育長、ほか関係職員の出席を求めています。職務のため、議会事務局職員が出席しております。

ここで市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長 お疲れさまでございます。

全員協議会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、連日慎重なご審議を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

本日の全員協議会でございますが、複合型交流拠点施設「道の駅」整備推進事業の進捗状況についてご説明をさせていただきます。ご協議のほどよろしくお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

議長 ありがとうございました。

それでは、次第に従いまして議事に入ります。

複合型交流拠点施設「道の駅」整備推進事業の進捗状況について、執行部より説明願います。

商工観光課長 商工観光課長の岡本でございます。ほか関係課が出席しております。よろしくお願い申し上げます。

着座にてご説明いたします。

本日の案件は、現在進めております複合型交流拠点施設「道の駅」の進捗状況についてご報告するものです。よろしくお願い申し上げます。

全員協議会資料1ページをご覧ください。

1、これまでの経緯でございます。

(1) 令和3年3月にまちづくりの方針を決定し、那珂インターチェンジ周辺地域において、道の駅を核としたまちづくりを推進していくことを決定しております。

(2) 令和3年度には市場環境調査を実施し、導入機能における市民意向調査、ニーズ

調査、また交通量調査を行い、事業収支構造検討を実施しております。

（３）令和４年度においては基本構想、基本計画を策定し、令和４年10月には基本構想を策定し、基本理念、コンセプト、導入機能の基本方針等について整理しております。

（４）令和５年３月には基本計画を策定し、基本構想の基本方針に基づき、導入機能、施設規模、管理運営体制等について整理しております。その中でも、管理運営につきましては第三セクター方式で進めていくこととしております。

続きまして、２、本年度の取組ですが、（１）議会への報告といたしまして、全員協議会への報告を６月、８月に実施しております。６月全員協議会では、第三セクターの参画企業の選定方針についてご報告いたしました。８月全員協議会では、第三セクター設立準備委員会の委員構成についてご報告しております。

（２）各種準備委員会の設置及び開催状況でございますけれども、10月に建設準備委員会、第三セクター設立準備委員会、出荷者組合設立準備委員会を立ち上げ、基本設計に向け協議を進めているところでございます。

（３）基本設計に向けた検討につきましては３ページ以降をご覧くださいと思います。

４ページには、目次になりますが、検討体制から導入機能についてご説明をしたいと思います。

５ページをご覧ください。

検討体制でございますが、先ほどもお話ししましたとおり、本年度は３つの委員会を設立し、検討を進めてまいりました。中段にございます第三セクター設立準備委員会では運営面に特化した検討を行い、下段の出荷者組合設立準備委員会では農産物直売所機能の検討に特化した検討を行っております。それら２つの委員会を市民目線でチェックする委員会として有識者、市民代表で構成された建設準備委員会がございます。

続いて、コンセプトとビジョンについて、６ページをご覧ください。

基本構想では、「那珂でつながる道の駅」をコンセプトとして、導入機能等の基本方針を決定したところでございます。本年度は、特に今後道の駅を運営していくに当たりどんなビジョンを持ってつながるというコンセプトを具現化していくのかを検討しております。その中で、再度、複合型交流拠点施設「道の駅」の整備の意義を整理してございます。

まず、７ページにございます本市のUSPとなる強み、売りでございますが、皆様ご存じのとおり、立地性としましては都心からの距離が100キロメートル圏内、１級河川である久慈川、那珂川に挟まれた開けた大地と豊かな自然、国道が３本、高速道路のインターチェンジ、ＪＲ水郡線の駅が９つあるなどの高い交通利便性が挙げられます。また、資源面では、自然資源、人文資源、経済資源として記載されているものがございます。

８ページをご覧ください。

本市では、そのような強みを生かしながら、人口減少の対抗策として総合戦略を策定しております。U S Pでもご説明したとおり、本市は自然性と利便性が両立しており、総合戦略では「いい那珂暮らし」をキャッチコピーとして4つの重点施策に取り組んでまいりました。そして、今このいい那珂暮らしを体現する拠点が道の駅となるわけでございます。

9ページをご覧ください。

本市は、人と自然がつながる街であります。そんな那珂市は、大人になってもふと思いをはせる原風景にあふれ、初めて訪れたのになぜか懐かしさを感じる場所、住みやすい環境や利便性の高さを有する新しさを持った田園都市であります。そんな那珂市の魅力を次世代の子供たちにつなげていきたい、それが本市の目指す道の駅であります。

10ページをご覧ください。

そのような目指す理想の姿を里山と捉え、つながりをつくる里山となる道の駅をビジョンとして今後の機能ごとのコンセプトを定めてまいります。

続いて、11ページをご覧ください。

道の駅を運営していくに当たり、道の駅の在り方、方向性、いわゆる基本方針として2つの循環を定めております。まずは、11ページにごございます外からの視線で新たな価値を創出し、人、もの、ことをつなぐ循環でございます。外からの視点を加えることによって市内に潜在している知られざる魅力を発見、再発見し、それに一流の視点を加え、新たな価値へと磨き上げ、進化していき、その価値が最大化することによって市民の誇りが生まれ、さらなる発見へとつながる循環です。

続いて、12ページをご覧ください。

その市民が誇りを持てることによって発信する循環へとつながってまいります。1、市民が誇りを持てることによって市外の人々に発信し、2、市外の方が道の駅を来訪、体験し、さらには、言い過ぎかもしれませんが、3の世界へ発信していくといった循環を目指してまいります。

続いて、13ページをご覧ください。

導入機能でございます。基本計画で導入機能の基本方針に基づき想定し得る機能を列挙させていただきましたが、基本設計に向け、本市では子育て、交通結節、防災などの市民目線に寄り添った地域振興機能を優先的に導入することといたしました。特に子育て機能については総合戦略でも子育て応援が重点施策の一つとなっており、市の価値を可視化し、近隣道の駅との差別化も図れるものと捉えております。

優先的に導入する機能を踏まえた結果、14ページをご覧いただきたいと思います。

導入機能は表のとおりとなっております。黄色で網かけとなっている部分が優先的に導入する機能となっております。

15ページから19ページにつきましては、今後さらに検討が必要になってくる機能やコ

ンテンツでございます。道の駅を拠点として市内周遊を促進するためにツーリズムの創出を検討しております。季節ごとのフラワーツーリズムや酒造ツーリズム、アドベンチャーツーリズムとして、那珂市に埋もれている観光資源に関しても、発見、進化の循環をしてまいりたいと考えております。

それでは、資料2ページにお戻りください。

4、今後のスケジュールですが、本日、全員協議会にて事業の進捗状況をご報告させていただいております。次年度からは、各種準備委員会の開催、基本設計に係るプロポーザルの公募を経て基本設計に取り組んでまいりたいと考えております。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

議長 説明が終わりました。

ただいまの説明について、質疑、ご意見ございますか。

笹島議員 人口減少、これは分かりました。これ、日本全体の問題なんで、那珂市だけじゃないんで。1億2,000万人か3,000万人かでしょうけれども、何十年後かには1億人を切っちゃうという、これは全体の話、日本の。隣の韓国も苦しんでいるけれども、そういうわけです。あまりこれ関係ないから、正直言って。どこも一緒ですから。

それで、これビジョンは何でしたっけ、もう一回教えてくださいませんか。

商工観光課長 ビジョンにつきましては、里山というものを、那珂市の現状を踏まえまして里山として捉えております。その里山につきましても、つながりをつくる里山となる道の駅というものをビジョンとして、今後導入する機能に対するコンテンツであったりするものに対してビジョンを掲げているところでございます。

以上でございます。

笹島議員 ちょっと雑になっているんですけども、人と自然と街をつなげると、ですよ、ビジョンは、正確に言うと。これ、何か別々な話なんですけれども、いいんですか、この曖昧なビジョンで。

商工観光課長 人と自然がつながる街というのは今の那珂市の現状をお話ししているところでございます。

以上でございます。

笹島議員 那珂市は、里山あると言っていましたっけ、ないですよ。

商工観光課長 議員おっしゃるとおり、那珂市には里山と呼ばれるものはないと認識しております。ですので、里山を道の駅につくって、里山を那珂市に根づかせると、そういった意味合いで里山というものをビジョンとして掲げているところでございます。

以上でございます。

笹島議員 那珂市以外の、ずっと離れた、30、50キロメートルは里山ありますよね。わざわざ何をつくるのかな、里山を、無理して。

商工観光課長 何でと、そういうご質問なんですけれども、現状の那珂市というものに里山は

ございませんけれども、那珂市にある原風景というものと、あと次世代にどのように那珂市の魅力というものをつないでいくのか、そういったことを考えまして、里山という那珂市にない、本来里山であれば人の手が入った山里ということになるのかと思いますけれども、その中で里山を那珂市に作って、次世代の子たちにつなげていきたいという思いから里山となっているところでございます。

笹島議員 現状が、先ほど言った、人と自然とつながる街ですよ、それ、今の現状のこれをもっともっと発揮して、具体的に持っていけないと、全く中途半端なんですけれども。わざわざ里山なんか作る必要云々というよりも、よそではもう里山ができていますから、わざわざ平坦で気候温暖で、非常に自然に恵まれたいいところにわざわざそういう余計なもの作る必要ないですよ。ですから、今言っていた、人と街と自然だよ、そういうまちづくりをやるつもりだったらそういうふうに持っていっていいんじゃないですか、もっと具体的に、余計なこと考えないで。どうなんですか。

商工観光課長 いろいろ那珂市にとって何がふさわしいのかというところを第三セクターの設立準備委員会の中で検討してきたところでございます。その中で、確かにいろんなビジョンの案というものが出ておりました。テーマパーク的なものでもあったり、また本当に通常の道の駅といった建設というものもありました。ただ、那珂市にとって、議員がおっしゃるとおり、今でも人と自然がつながる街で、それをもっと磨き上げていくというご意見だったかなと思いますけれども、その委員会の中ではやはりそれをさらに、魅力を上げるための里山という位置づけになっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

笹島議員 この話をいつまでもこだわってはいけませんよ。現実的に何十億円とかけて施設を造って、それで那珂市をよくしようということでしょう。要するに、人とももの金をかけるわけでしょう。これ、大変なことなんですよ。自然でそのままだったら、これそのままで構わないでしょうけれども。ですから、今言っていた特色あるという、ビジョンなんてもう何十年も前につくっておかないといけないといけないんですけれども、それはそれでいいです。でも、特色あるものじゃないと現実的に集客は鈍くなりますよ、正直言って。ここの何キロメートル以内には競合のあれがあるわけでしょう。よっぽどの特色出さなければ絶対人は来ませんから。

もう一つ、もっと現実的な話すると、今言っていた、例え造っても、土日は来ますよね、正直言って。これどこでもそうなんですけれども、ビジネスでは平日対策なんです、平日。今度リニューアルオープンしますよね、植物園が。多分それも当てにしているでしょう。距離感が、隣に造るんだったら構わないけれども、ある程度距離があるでしょう。あそこは1億1,000万円くらいの赤字を出してしまして、指定管理にしたかな、それで。それで、前は23億円くらい、3万人くらい、今5万人しかいないよね、だから。それで、宿泊的なあれだと。今度の4月にオープンすると。また今度は追加してあれする

ということでしょう。だから、本当にやるんだったら、コバンザメ商法って知っていますよね、隣に造ってそのお客さんをこっちにもらうと。お互い相乗効果がありますよね。距離感がありますよね、非常に。隣に造るんだたらいいですけども。そういうちょっと現実的な、要するに、今言っていた、リニューアルオープンするところに頼るのはいいんですけども、ちょっとごめんなさい、頼っちゃいけないですよ、本当に造るんだたら。自分でどれだけ自立できるか。あれは後からついてくるもんですよ、来ればもうけもんだという、そのくらいの気構え、心構えがないと絶対成功しないから。こうするんだ、ああするんだ、そんな甘いもんじゃないですから。それをはっきりと。今言っていたコンセプトとかビジョンとかってありますよね。それは外の話、自分はこうして投資をするんだ、資本かけて、人とのをかけてやるんだということが一番大事ですよ。まずこれが中心であって、先ほど言った、そこに付随して子育てとか交通もあるでしょうけれども、防災とか。自分が何を中心でやらなきゃいけないということをまずしっかり我々に訴えかけないと説得力がないですよ、私はね。ほかの人には、これから質問出ると思うんですけども。

以上、私からで。

議長 ほかがございますか。

大和田議員 ちょっと確認等も含めてなんですけれども、三セクの設立準備委員会が10月からということなんですけれども、どことどこがやっていて、出資の比率なんてどうだったでしたっけ。

商工観光課長 まず、構成委員ですけども、まずは市が入っております。商工会、市内金融機関、それに10月にもご報告しておりますけれども、木内酒造が入っております。

出資割合につきましては、今設立準備委員会ですので、出資構成であったり議決権であったり、そういったところについては今後の検討となっております。

以上でございます。

大和田議員 まだ出資の比率は決まっていないという形で。分かりました。

あとは、出荷者組合設立準備委員会なんかはどんな構成になっているのでしょうか。

商工観光課長 まずJAに入っているということがあります。その中で、市内の農家団体でありますアグリビジネスネットワークフェルミエ那珂に入っているということがあります。アグリス、農業後継者クラブ、那珂市農業担い手確保・育成協議会MIRAI、あとは農業経営士などが委員の構成となっております。

以上でございます。

大和田議員 市内の農業者も入っているということなんですけれども、ちょっとこの里山でものを売るということだと思えるんですけども、ここに導入機能なんかの食でつながるとあるんですが、これができようとしてあと5年とかですか、という形で、今からソフト面である何か出荷するとか、通年通して出荷するというものとか、あと特徴のある加工

品ですとか農産物ですとか、出そうと計画しているかと思うんですけれども、それも準備進めないというか、農業ですから半年で作れるかと言われたら作れないと思うんですけれども、そこら辺の進め方、ソフト面の進め方はどんなふうになっているんでしょうか。

商工観光課長 まず、農家につきましては、今年度、10月から立ち上げているところで、正味半年ない中で委員会のほう進めております。その中で、まず農家の意識づけとしまして生産組合というものがどういうものなのかということも本年度は重点的に農家のほうにご説明をしてきたところでございます。その中で、出荷者数、農家の数、そちらが想定している売上げに対して何人ほど必要なのかとか、そういったところを精査させていただいて、本年度は農家のほうにご説明をしております。次年度からさらにアンケート調査を行いまして、出荷意欲のある農家を募って、今の現段階でどのくらいの出荷希望者がいるのかということをもまず調査してまいります。さらに、議員がおっしゃるとおり、特色のある農作物というところで、それにつきましても次年度からの検討となっております。

あと、加工品なんですけれども、加工品につきましては本年度から、農政課のほうになりますけれども、うまいもん会議というものを開催しております。その中で、サツマイモ、カボチャというものに特化しました商品開発というものを市内の事業者の手を挙げていただいて実施したところでございます。その中で24品目、今年度は新しい商品として求評会をやったところでございます。さらには、その24品目の中から私どものほうで実施しておりますブランド認証のほうに数件上げていただいて、さらに、今回本当に商品だけの開発になっておりますので、パッケージとかそういったそのあたりを磨き上げていくような形になって、道の駅に出品できるような加工品というものを目指してまいります。

すみません、長くなって申し訳ないんですけれども、また第三セクターのほうで一流の視点を加えて磨き上げていくといった循環というところをお話しさせていただいているかと思います。その中では、やはり目玉となる商品開発というものが重要なんだろうということで、そこはすみ分けて、目玉となる商品につきましては第三セクターのほうで開発のほうを進めていきたいと考えております。

以上でございます。

大和田議員 なるほど、これ、道の駅、今造るというところだから皆さん機運が高まっていてそういうのがあると思うんですけれども、道の駅、20年、30年続けていかなければならないというところで、周りの市民の皆さんもずっと出荷を、20年、30年続けていけるんですかというところですか、そういったものを危惧されるので、そういったところも生産者の皆様とも協議をしているんでしょうか。

商工観光課長 今後、継続的に持続可能に出荷ができるかということかと思いますけれども、

そちらにつきましては、やはり農家数というものは減少傾向にございます。その減少している中で、総合戦略の中でもやはり那珂市の基幹産業となる農業を守っていきましよう、担い手をつくっていきましようということで、総合戦略の中の施策の一つとなっているわけでございます。その販路、まず農家がもうかる農業というものを農政課のほうで、令和2年だったかと思えますけれども、アグリビジネス戦略というものを策定しております。それに沿って担い手というところも今後強化していこうということで実施しておりますので、道の駅に限らず、そこにつきましては農政課の施策として今後も実施していきたいと考えております。

以上でございます。

大和田議員 相当市でもてこ入れしていかなければならないのかなと思うんですけれども、てこ入れにするにしてもやはり予算等もあると思いますし、それを持続可能に続けなきゃならないというところで、ここにも水戸農業高校と連携した六次産業化とかと書いてあるんですけれども、ちょっと常に出していくというのが、協議しているのであれば不安も解消するんですけれども、ほかの道の駅なんか見ますと、例えば那珂市だとしたら、ほかの市町村どころか茨城県内からごちゃごちゃ入ってきた、そういった道の駅というのがちょっと懸念、それがいいのか悪いのか分からないんですけれども、そういった市内の業者がもうかる形になっているのか、そこら辺はどうなんでしょう。

商工観光課長 前にもお話が出たかと思えますけれども、我々の目指している道の駅というのが常総市、例えに出してしまいますけれども、やはり地元のものでないものがたくさん売っています、常総市は。本当に茨城県のアンテナショップという状態になっているのかなと思っています。我々が目指しているのは、やはりそこではなくて地元の活性化というところがございますので、そこにつきましては地元の生産者と一緒に今後も進めていきたいと考えているところでございます。

大和田議員 最後ぐらいになるかな。地元のって言うんですけれども、ちょっと後半に導入機能とかコンテンツとかといってフラワーツーリズムとか酒蔵、酒造ツーリズムとかってあるんですけれども、何か那珂市の市内のというよりフラワーだと周辺のほうが強いのかな、そっちに何か目が向いちゃうようなツーリズムだとか、木内酒造はあるにしても、ほかに酒蔵が、県内ほかのほうに目が行っちゃうような、そういった何か那珂市の道の駅を中心に回していくというような感じではないかと。であれば、例えば、商工会じゃないけれども、市内の商工業者をつながるようなツーリズムですとか、そういった市内周遊できるような話であれば、発掘とかそういった形になろうかと思うんですけれども、そこら辺はどうなんでしょう。

商工観光課長 今後検討していきたいというツーリズムの創出なんですけれども、フラワーツーリズムにつきましては、決して市外とかということを考えているわけではなくて、那珂市内、やはり八重桜まつりがあったりひまわりフェスティバルがあったりと那珂市の

花というものがございます。常にそういったツアーが組めるわけではなくて、季節ごとにそういったツアーのほうを検討していった那珂市の周遊につなげていきたいと考えているところございます。また、アドベンチャーツーリズムとして寺社仏閣といったところの歴史的なものもさらに深掘りをしていきながら、まずは市内で周遊することを考えております。ですので、飲食というところにつきましても、決して市外というふうに我々は捉えているわけではございません。酒造ツーリズムに関しましては、やはりおっしゃるとおり市内には酒蔵と言われるところは木内酒造しかございません。ですので、その辺につきましては、競合と言われている常陸太田市、常陸大宮市の道の駅がございます。そういったところも共存できるような、そういったツアーを組んでいけるような、酒蔵に関してはですけども、そういったものもできればということで今後の検討としているところございます。

以上でございます。

大和田議員　ですので、ちょっとさっきからの話を聞くと、やっぱり道の駅があって何かそれで終わりというようなちょっと感覚が見受けられるなど。だから、そうやって市内の、例えば子育て機能をここにつくると、それは結構ですけども、それがみんなが集まれば終わりかという話なんです。あと、また商工業のつながりも、道の駅でだけでもうかればいいのかじゃなくて、その枝葉、ほかの商工業、市内の商工業につながるようなというつなげる、本当にこのコンセプトの話ですけども、つなげるというところのそのつなげる出口がちょっと足りない。ちょっとまだまだ見えないと思うところございます。どうでしょうか。

商工観光課長　おっしゃるとおり、今第三セクター設立準備委員会の中では「那珂でつながる」という基本構想のコンセプトについて、それを具現化するためにどういったビジョンを持って運営をしていくか、どういった建屋のイメージであったりゾーニングであったり、そういったものをまだ検討している段階でございます。今の市内への商工業とかにどうやってつなげていくのかというところで、基本構想の中では市内のデジタル通貨であったり、またはふるさと納税の自動販売機とか、発券機で、そこでふるさと納税ができる、そのままそれがその場で使えるといったような仕組みというものも考えておりました。今もまだ、本当に全体的なイメージというもののしかまだ定まっておきませんので、そういったソフト的な連携という部分につきましては本当に今後お示しできると考えております。

以上でございます。

大和田議員　最後ですけども、そういう出口、このビジョンの那珂市のUSPの中にも那珂市の資源、強みということでいろいろ、静峰公園とか清水洞の上公園とか、そういうようなところもありますけれども、そこにもやっぱり人が来るんだぞ、だからこういう整備をしていかなきゃならないんだよという、市の施策の中にもそういった強みのところ

に目とか予算とかつけて政策に打ち出してもらいたいと思います。

以上です。

議長 ほかがございますか。

福田議員 これ、ビジョンなんですけど、里山ということで、いわゆる起伏のある、そういうイメージの里山、外観から見てそういう、イメージ的にそういう道の駅なんですか。

商工観光課長 確かに里山というとそのように捉えられてしまうかと思いますが、なかなかそこまでの起伏といったものを造るというのには造成費というものがかかってくるかと思っています。ですので、今後基本設計の中で里山をどういうふうにイメージしていくのかというところを今後の設計の中でお示しできればと思っています。ただ、やはり議員がおっしゃるとおり起伏とかそういったものまでは考えておりませんので、通常、道の駅ですと道路から見てどんと建物があって駐車場があってというような形なのかなと思いますけれども、そうではなく、その中で、その空間で没入感というものを持って里山というイメージができればいいなというふうには考えております。

以上でございます。

福田議員 今言っているように、イメージ的に里山らしいということであれば、やはり我々が想像しているそういう外観的なのかなというイメージを持つわけです。そうした場合に、例えばこの建物というのは、里山らしい建物というのはどういう建物なんですか。

商工観光課長 どういった建物が里山なのと言われるすと、やはり自然と調和したというところが一番なのかなとは思っております。今後、設計を発注するに当たりまして、その辺は提案をいただきたいと考えておりますので、その提案をもってご報告ができればと思っております。よろしくお願いします。

福田議員 ちょっと何かその辺が見えてこないんですけども、ということは、我々過去にいろんな道の駅視察した、そういうイメージとは全く違った、そういうふうを考えていいのかな。

商工観光課長 議員おっしゃるとおり、まずは先ほどからお話しさせていただいております一流の視点で、外からの一流の視点を取り入れるといったところには建築関係についてもそういったことを考えております。

以上でございます。

議長 ほかがございますか。

小宅議員 私もこのコンセプトには非常に違和感がありまして、なんで那珂市で里山なのって、多分那珂市の人みんな思うと思うんです。だから、外からの人の視点だと那珂市、田舎だから里山なんだろうみたいに出てきたのかなと安直に思っちゃうんですけども、議会で評判が悪かったと言って覆るのかどうか分かりませんけれども、コンセプトですから、そういうコンセプトでいきたいということですから。でもちょっと、非常に、皆さんと同じで違和感を感じます。

あと、先ほどの導入機能コンテンツですけれども、フラワーツーリズム、酒造ツーリズムアドベンチャーツーリズムとありますが、これもうがった見方をしてしまうと、フラワーは梅酒かなと、酒造は木内酒造に行って、常陸野はビールかなと、株主だからこれはしょうがないと言ったらしょうがないのかもしれませんが、これ木内酒造に全部お任せですかというような感じも受けてしまうんです。

さらに言いますと、あそこに道の駅ができるということは、少なからずあの辺の経済状況は変わるわけです。なるみ園、ヒロセヤ、どちらも野菜売っていますよね。ここに道の駅で野菜を売り出すということに関して、その辺に対してはフォローとか、そういった対策とかというのは何か考えていらっしゃいますか。

商工観光課長 そのところにつきましては、やはりなるみ園、ヒロセヤだけではなく、市内の直売所というところもあるかと思います。今までの検討委員会の中には直売所の店長にも入っていただいております。今回はなるみ園にも建設準備委員会のほうには入っていただいております。その中でご意見をいただきながら話は進めているところでございますけれども、ただ、確かにスーパーといった面では、そちらに関しましては委員会とかに入っていただいているわけではございません。ただ、そういった直売所であったり、どちらかといえば直売機能、そういった機能を持っているところの代表の方には入っていただいて、検討委員会の中で検討を進めているところでございます。

小宅議員 直売所っていうのは、市でやっているとながりはっと、ふれあいファーム芳野と、あとはJ Aの直売所ということですかね。その3つですか。

商工観光課長 おっしゃるとおりです。

小宅議員 J Aも含めまして、ある意味公的な、いわゆる一般的な競争社会の中でのお店ではないので、もっと深刻なのは小売業者だと思います。少なからず影響は受けると思いますので、果たしてここに道の駅を造ることが本当に正解なのかどうかも含めて私は考えるべきだと思っております。

以上です。

議長 ほかがございますか。

原田議員 まず、かなり莫大な予算を使っただけの事業だと思うんですけれども、基本的にビジョンありき、具体的なビジョンありきでこういう事業というものは進んでいくものかなと思うんですが、まだ具体的なビジョンが立っていないということで、この具体的なビジョンというのはいつ頃明示されるものですか。

商工観光課長 ビジョンにつきましては、今お話しした里山というビジョンでということになります。

以上でございます。

原田議員 具体的なビジョンが里山ということですね。そうしますと、先ほどからもお話出ていますけれども、那珂市の原風景を大切にしたいと、そういった中で、やっぱり那珂市

には里山という原風景はないわけで、その中で原風景を、もともとはあそこ田んぼとか畑なんで、その原風景を壊してそういったものを造るということ、これ原風景を大切にすることの矛盾も感じますし、あとそういった里山的なもの、自然と調和した、そういった観光施設を造りたいというのであれば、那珂市だったら那珂大地とか、あの辺りの開発というのも考えられるかなと思うんですけども、そのあたりはいかがでしょうか。

商工観光課長 まず、インターチェンジ周辺ということで、農地が多いわけでございますけれども、そこにつきましてはインターチェンジが開設されて約38年が経過しております。その中で、あの一帯の整備というものが市の課題となって今まで進んできたところでございます。その中で、それが、もちろん政策企画課のほうで産業用地のほうも進めておりますけれども、田んぼを潰して原風景を造る矛盾というところなんですけれども、矛盾というところには、それは感じていないところとしか言いようがありません。

以上でございます。

原田議員 ありがとうございます。分かりました。僕は矛盾を感じているというところかもしれませんが。

あと、ちょっと道の駅で子育て機能というところなんですけれども、この辺、具体的にどういった機能なのかなというのを教えていただきたいです。

商工観光課長 14ページの表にもございますとおり、全天候型のプレイゾーンというものを検討しております。こちらにつきましては、今までの検討委員会、さらには現在行っております建設準備委員会の中で意見が強かったものとなっております。

以上でございます。

原田議員 これ、対象是那珂市在住の子育て世帯という認識でしょうか、それとも外から、市外の方々が利用するというイメージでしょうか、お願いします。

商工観光課長 そちらにつきましては、両方ということになります。

以上でございます。

原田議員 現状でいきますと、やっぱり若い世代という共働きの世代が非常に多くて、平日なんかはやっぱり子供たちも習い事とかしている中で、外で遊んだりする機会がないというのは市民の方からも聞いている声なんですけれども、ただ、その際に、共働きの中で、わざわざ道の駅まで車で来て遊ぶかというのと、それよりは身近なところに公園とか遊ぶスペースが欲しいなというところもあるので、ちょっと話がずれてきてしまっているかな。大丈夫ですか。なので、子育て支援というところと道の駅というところがうまく僕の中でつながらないなというところがあるんですが、その辺、例えば平日とかの利用者とか、そういったことはどういうふうにイメージされているんでしょうか。

商工観光課長 確かにおっしゃるとおり、道の駅に平日子供だけで来て、自転車で来て使用できるのかというのと、なかなかそこは難しいかと思います。そういった平日身近に公園が

あって遊ぶとかというものは、やはりまた別なちょっと施策になってくるのかなということは思っております。ただ、道の駅というところに、実際に道の駅を利用される方というところが、やはりどちらかという和高齢の方が多いのかなと、今の道の駅の利用客というのが。その中で、子育て世代というところもターゲットにして、まずは道の駅に呼び込みたい。さらには、その人たちがゆっくりその場で時間を過ごせるような、そういった施設が那珂市に求められているといったところで、道の駅にはそういった子育て、子供たちが遊べる、雨の日であっても遊べるような施設を設けるということで、今回全天候型のプレイゾーンというものを機能として入れているところでございます。

以上でございます。

原田議員 高齢の方がメインの対象という話であると、高齢の方はこれからやっぱり運転免許返納されたりとかして車を利用されるという方も少なくなってくるので、そうすると、やっぱり道の駅というところ来づらい場所になってしまうかなというのと、あとやっぱり先ほどのビジョンの話になってしまうんですけれども、里山というところで何かざっくりとしているビジョンだなというふうな印象を受けまして、もっとやっぱり具体的にどういったターゲット層で、それこそやっぱりこれからずっと20年、30年と残っていくものなので、未来を見据えた上でどういうよい影響というのが那珂市にあるのかというところを、もうちょっと具体的にビジョンを明確に出していただきたいなというふうに思います。なるべく早い時期に。

商工観光課長 今ビジョンというところですので、さらにそこに向けてコンセプトというものを、今回コンセプトとビジョンというものが何通りか出てきてしまっていますけれども、まずは総合戦略というものに対しての今回道の駅のつながるというコンセプト。運営面でのビジョンとして、今回里山というところを出させていただいておりますので、その里山に対するコンセプトというものは、やはり議員がおっしゃるとおり、今後打ち出していきたいとは考えておりますので、お願いしたいと思います。

議長 ほか。

遠藤議員 何点かせっかくなのでお聞きしますけれども、先ほどからのビジョンの里山なんです、これまず本当に執行部の皆さんが那珂市を売り出したいということで出てきたビジョンなんですか。もう少し、ここまで出てきた経緯を教えてください。

商工観光課長 まず、第三セクターの設立準備委員会の中で、どういったビジョンを持ってやっていくというところで、まず委員の皆様方にワークショップ的なものをしていただきました。その中で多かった意見というのが、やはり、年齢層によるのかもしれないんですけれども、昔の那珂市というものをイメージされてというものが、意見が多かったというのが実情でございます。そうした中で、やはり那珂市というものの自然というものを大切にしていかなければならないといったところから、里山みたいなものができるといいよねというのがやはり最初の始まりでございました。その中でであっても、やはり

里山では、地方創生につなげていく里山としてどういった取組があるのかなというふうに調べていったところ、やはりそういった取組をやっているところがございました。里山をそこに造って、やはりそこには里山がないと、でもそこに里山を造って10年たてばそこに里山として根づくんだということで、そういった取組をしているところがございました。ですので、そういった経緯を踏まえて里山となっているところでございます。

以上でございます。

遠藤議員 公共施設なんでいろんな役割があって、例えば文化伝統、それを伝承館みたいなものであればそれはそれで、例えば利益を出さなくていいようなものも公共施設ってあっていいと思うんです。ただ、道の駅、これから造るのであれば、これは利益を出していくべきものだと私は思っているんです。だから、あればいい、ずっとそれは赤字でもいいという施設ではこれはもはやないんです。限られた財源の中で造るのであるから、イニシャルコストが26億円かかり、年間7億円売らないとペイできないという施設になっているんです。だから、それを、売上げが上がる施設をまず造らなきゃいけないのが基本ですよ。だから、それはもう都会から呼ぶに当たっては、例えば群馬県だって栃木県だって千葉県だってたくさん道の駅があって、茨城県にもあって、その中でこの那珂市をわざわざ選んでいただく意味合いとしてはこれでいいんですか、これでいいと思いますか。

副市長 ありがとうございます。

ちょっと里山というのが議論になっておるわけですがけれども、里山というのは人それぞれかなりイメージが違うんだと思っております。一つ、那珂市を考える場合という話が出ていますけれども、私は常日頃那珂市を考えるというのは那珂市単独で考えるのではなくて、那珂市の魅力というのはやっぱり水戸市、ひたちなか市があって那珂市があるという、トータルで考えて那珂市の存在意義というのがあるんだと思っています。教育にしても病院にしても、水戸市にこれだけあって近くて行けるんだよ、それが那珂市の魅力だよというふうに考えています。里山も同じで、先ほど言ったように里山のイメージというのは人それぞれだと思えますけれども、市長が常日頃言っているように、県北の玄関口として那珂市を売り出す、それは那珂市の我々にとっても里山、例えば常陸大宮市であるとかは身近な存在だと思えますけれども、そういったものをやはり外から来た人に対しても遡及するという意味で里山というのはあるんだと思っています。

また、具体的にどのようなイメージなのかということ、今遠藤議員のほうからもありましたけれども、我々としては本当に素晴らしいものをつくりたいと思っています。今、一流の建築士の方と相談しながら話を進めています。多分ほかの道の駅と本当に異なるような、先ほど福田議員からもありましたけれども、ほかの道の駅とは全く違うような建物ができるんだと思っています。その建築士の方と相談しながら、那珂市のイメージというのはどんなものなのか、もしかすると、やっぱりここは平坦だよということ

平坦な里山ができるかもしれません。そこはこれからちょっと建築士、そういった専門の方と相談しながら具体的なイメージをつくって皆さんにお示しすると、そういうような考えでおります。

以上です。

遠藤議員 とにかく、この道の駅はもうかって、那珂市の活性化に大いに寄与するのであればやるべきなんです。でも、なかなかそうでない場合はやっぱりやっちゃいけないんです。人口減社会だから。だから、当然検討は慎重にやらざるを得ないんです。そういった意味で、これまでの経過というところでちょっと出てきますけれども、1 ページ目のところに市場環境調査を令和3年度にやってあって、利用者数が73万人で、採算性があるという結果が得られたという記載があるんですが、本当に採算性があるのかという部分で、かなり多くの市民の皆さんが疑念というか、不安に思っている。だから、昨年私も質問でちょっと出させていただきましたが、この73万人というのはいわゆる道路の交通量調査でもってはじき出されたあの施設の中に入ってくる人数が73万人なんです。恐らくこれは信用性があるんだろうと思いますけれども、あそこの基本計画のあのとおりで示された考えでいくと、例えば道の駅というのはトイレ休憩施設でもあるからトイレだけ寄って行っちゃうとか、場合によってはそれで缶コーヒー1本だけ買って行っちゃう、そういう人もいるかもしれない。だけれども、今回の基本計画は、あの敷地内に入ってきた73万人全ての人がレジを通して950円の買物をして年間7億円という売上げの計算なんだというふうなことですよね。これは、去年の一般質問の答弁でもそういう話でありましたが、入ってきた全員が950円買っての7億円でないと成り立たないという計算で間違いないですか。

商工観光課長 今、令和3年度のお話だったかと思いますがけれども、令和4年度の基本計画の中でも収支構造の計算というものは実施しております。その結果としましても、やはり交通量は変わらないので計算結果は変わらずということになっておりますけれども、その中で立ち寄り率、前面の交通量から立ち寄り率というものを東日本高速道路の設計要領に基づいて出しているところでございます。その中でも、やはり一般自動車が多いかと思しますので、そこの立ち寄り率というものは実際に0.175%と本当に少ない数になっております。それにさらに私どもは道の駅の近接というところがございますので、一般的に休憩所というものは25キロメートル間隔にあるのが望ましいということになっておりますので、常陸太田市の道の駅、常陸大宮市の道の駅、それぞれ補正をかけて、実際には小型自動車であれば0.07とか、そういった本当に過小の数字で現在出しているところでございます。ですので、実際に、どれが正解かというところがあるかと思っておりますけれども、なかなか道の駅の収支構造計算を出すに当たって、商圈的なマーケティングという実例がなかなかないと。やはり、建っている場所が山間部であったりとか、また那珂市のように高速道路の近接型であったり、そういったところでやはり入ってくるお客

様というのは違いますし、山間部であってもやはり集客がある施設はございます。

そういったわけで、なかなかマーケティングといった確たる商圈での収支構造計算というものができないのが実情でございます。なので、前面道路の交通量というところに頼らざるを得ないところでございますけれども、ただしその数値、計数は下方で大分見ておりますので、議員がおっしゃるとおり、立ち寄った方が全員レジ通過というふうにはなっておりますけれども、大分下方の計算で収支のほうは見ている状況でございます。

以上でございます。

遠藤議員 基本計画できちっと出ているじゃないですか、基本計画の75ページに立ち寄り率がありますよ。計画交通量、あの道路を通る車の量、それから補正立ち寄り率、その車の中でどれぐらいのあれで立ち寄るのか。あとは、乗車率、これがバスの場合もあれば乗用車の場合もある、それ掛けるそれは365日で想定利用者数が77.5万人てもうちゃんと計画で出ているんです。だから、それは立ち寄り率、そういったものは若干いろいろあるだろうけれども、こういうことで那珂市の道の駅は77.5万人年間来るんですよというのはちゃんと出ているじゃないですか。それでいいんですよ、僕はそれはそれでいいと思っています。

ただ、ここで考え方としていいのかなと思うのは、想定売上高が想定利用者数77.5万人掛けるこの近隣の道の駅の単位、人数当たりの売上単価950円をそのまま掛けた数が想定売上げの7.36億円になっているから、これで本当に大丈夫なんでしょうか。僕が申し上げたのは、本当に道の駅に入ってきた人たち全員がレジ通過して、しかも缶コーヒー1本だけじゃないですよ、全員が950円、赤ちゃんも含めて950円を買ってようやく成り立つ7.36億円なんだ。これが本当に採算性取れるんですかというのが多くの市民の方が不安に思っているところだから、もしかしたらこの半分かもしれないわけですよ。これは分からない。ただ、これは市が示したシミュレーションの数字でありますから、だからこれは市のほうで自信持って出した数字であろうから、これが大丈夫なんでしょうかと、それは去年僕が一般質問でやった内容ですよ。

ただ、こういうのって、行政資料って大事で、過去の結果こうなっているというのは大事で、令和3年度に採算性が見込まれると書いてあるから、これはそういうことで議会も通して承認されているんだなというふうに見られてしまうことがあるから、これ本当にそうなのかなと。やっぱり疑問は呈しておかないといけないじゃないですか、我々は市民の代表なのだから。だから、それに対して疑問があればきちんとまずお答えいただいて、採算性は本当に大丈夫なんでしょうか。市が出した前提の計画によると、ということを改めて聞いているだけです。

商工観光課長 先ほどもちょっとお話しさせていただきましたけれども、繰り返しになって申し訳ないんですけれども、前面の交通量というところで実際に収支構造計算をやっている道の駅がほとんどでございます。常陸太田市、常陸大宮市というところの道の駅につ

いても、やはり収支構造計算につきましては前面交通量でやっておりました。その中で、実際に出した常陸大宮市、常陸太田市の収支構造計算からいえば、どちらの市もその交通量から見て大幅に収入はあったと、今現在もその計画からはあるということになっておりますので、だから那珂市は大丈夫なんだというわけではございませんけれども、やはりそれを参考の例として私どもは捉えております。

以上でございます。

遠藤議員 分かりました。

そうなってくると、やっぱり大事なのは常陸大宮市は何で売る、常陸太田市は何で売るという、那珂の道の駅は何なんだと、主力商品は何ですかというところがやっぱり問題になってくるわけです。だから、そのこのところを去年も聞きましたが、きちっとしたお答えはいただけていないのですけれども、これ、例えばどっちが先かという話ですよ、道の駅を造るからそういった商品をつくるのか、もう既にそういうブランド物があるから道の駅を造るのか、コロンブスの卵みたいなものですが、今のところ、執行部にお聞きすると、主力商品何ですかと聞いたらはっきりとしたお答えがなかったから、多分道の駅を造るんでこれから作らざるを得ないんだろうと思うんですが、それでも僕はいいと思うんです。那珂市の農業が活性化し、発展することは僕も皆さんも望んでいることだから大いにやっていただきたいんです。大いにやっていただきたいんですけども、残念ながら道の駅はインシャルコストがもう26億円かかってしまうというのが分かっている、これは国・県からの補正なり補助金なりがどれぐらい出るか、メニューはたくさんあるけれども確約はないんです。もし赤字になったら、これは借金なんです。これも分かっているわけです。

なので、農業活性化をぜひやっていかなきゃいけないんですけども、でもそういう箱モノをつくるんだからやっぱりリスクはあるわけです。リスクはあるし、僕らも補償してくれとは言いませんが、きちんとした考えで、やるならきちっと進めていかないといけないでしょうと、少なくとも我々市民を納得させるぐらいのそういうプランなり根拠がないとやっぱり駄目だと思うんです。そういった意味で、じゃ採算性もそうだけれども、主力商品を作るに当たっての道筋をちょっともう少し教えてください。

商工観光課長 主力商品の道筋ということですが、まず先ほどもお話しさせていただきましたとおり、農政課のほうでうまいもん会議というのを進めていて、まずはやはりカボチャ、サツマイモといったものを使用した加工品というものを考えているところでございます。

さらに、今回資料でご説明をいたしております、なかなか那珂市で事業を営んでいる業者から見て素材というものに関しては、やはりなかなか新しい発見というのは難しいのかなと思っております。そこに外部からの視点というものを加えまして、まずは素材としての発見、再発見、もちろん既存のものでも再発見という意味で、まずはそこに取り

組みます。さらに、一流のシェフであったりパティシエであったり、そういった方を召喚しまして、そこでさらに磨き上げていくと。それが進化していくことによって特産品と、那珂市の目玉となる、道の駅で目玉となる商品開発というものはそういうふうになっていきたい。ただ、そういったものだけではなく、もちろん市内の事業者たち、商工業が活性化できるように、今農政課でも取り組んでいるような、地元の事業者が新たな商品開発ができる体制づくりというものは今現在進めておりますので、それを特産品として今後道の駅のほうに商品として並べていければとは考えております。

以上でございます。

遠藤議員 大いに期待したいと思うんです。本当にそれは期待しているんです。それって、ただ道の駅があるからやると話しているけれども、本当は今までもやっていなきゃいけなかったことなんです。那珂市の農業、大事だ大事だ、基幹産業というなら。だったら、道の駅なくなるとんがりはっとでも芳野でもそれを売ればいいんだ、これから。ということだと思うのですが、それぜひ本当にやってほしいと思うんだけど。

あと、例えばさっきの子育ての機能の部分を持ってくるとかという話だけれども、それもどちらかというと、お金の使い方としては道の駅ができるから持ってくるような雰囲気があるんで、それだったら、今たまたま原田議員がおっしゃったけれども、各地区に、住宅街のある近くの公園にもっと遊具を増やすとか、やっぱりもう子育て世帯の方が住んでいるところにそういう、身近に、歩いていけるような遊具とかそういう、全天候型だって造ればいいんです。わざわざあんなところに行かないよという、やっぱり僕も何人かから聞いています。だったら、同じお金を使うんだったらそういうふうなことだし、例えば防災機能ということも書いてあるけれども、そんなこと言うんだったら、例えば拠点防災の避難所があるわけじゃないですか、今だって。そこに防災備蓄をもっと増やすとか、今だってあるんです。でも学校にはないんです、そういう防災備蓄の備品は、そんなには。であれば、今でも40か所近くある避難所、その備蓄をもう少し増やして、本当にいざというときにためになるような防災機能を高めるんだったらそういうお金の使い方のほうがいいと思うんです。わざわざ道の駅に防災備品を取りに行く余裕ありますかということでして、地域にそういう防災備蓄とは、そういう機能を持たせるようにお金を使うべきなんです。

だから、道の駅を造るからいろんなものをそこに持ってくるみたいな雰囲気がするもんだから、もしそういうお金を使うなら、ちゃんと住んでいる方々が実際に使えるような遊具であったり防災備品だったり、そこは今あるところにやるべきだと思っているんですけれども、そこらの考え方ってどうなんでしょうか。

副市長 すみません、ありがとうございます。

遠藤議員の言われることももっともだと思っております。ただ、それは道の駅というものをどういうふうに捉えるかということだと思っております。もともと、皆さんご承知

のとおり、昭和59年に那珂インターチェンジができて、40年来ずっと何とかしなくちゃいけないといってできてこなかったインターチェンジ周辺を、せつかくあの土地を街の活性化につなげようということやってきたわけです。その中では、商業施設を造りたいという事業者もいたし、流通団地を造りたいという事業者もいました。また、那珂町でも商業施設、あるいは道の駅、あるいは交流施設を合わせてそこに造ろうというふうな構想があったと聞いております。ただ、いずれも結局は土地利用の問題であるとか、具体性がない、事業者がいないねということでつぶれてきたというふうに聞いています。

この道の駅、インターチェンジ周辺に造るという意味合いは、那珂市の今後の発展の拠点として造っていくという目的だと考えています。単にあの道路を造るだけではなくて、やはり拠点を造る、そこにいろんな事業者、あるいはここに住みたいという人を呼び込む、そういった施設だと思っています。そこはやはり目的が違うんだろうと思っています。各地区にそういったものを造るということと、それはもちろん大事だと思っていますけれども、そういった考え方の違いで、やはり我々とすればあの周辺、これからの街の発展のために道の駅を拠点として造っていきたいという思いがあるということです、その点をご理解をいただければなというふうに思います。

以上です。

渡邊議員 私が思うには、ちょっとほかの方々と違う部分はあるんですけども、まず那珂市、今の那珂市というのはほかのところから観光なり何なりでも誘導するものというのは何があるんだろうと。確かに文化施設とか何かはあるんですけども、ランドマークとなるようなそういう施設がないんじゃないのかなと、例えばそれが道の駅というのは執行部の考えだと思うんですけども、それとなるものはやはりまず必要だよと。どれだけ人を呼べるかというのがまず必要だというのは、私の中で大前提だと思っているんです。

この道の駅の中のコンセプトである里山というのは、いろいろと意見があったんですけども、私はあくまでも住宅地とか都市部の市街地、それと自然が最初につながる場所、そこがイメージとして里山なのかなと。決して山がある、小高い丘がある、そういうイメージではないというふうに思って、このコンセプトで、面白いなと思って聞いていました。確かにいろんな意見があったと思うんですけども、那珂市の立地条件を考えていくと、水戸市やひたちなか市の後背地、ベットタウンというのがなくなっているんですけども、そこで初めて自然に触れながら生活ができる場所というのが那珂市のいいところなのかなと。そこで里山的なイメージを持ったというのは、決して里山、山を造るのではなくて、そういうイメージを大事にしたコンセプトだから、これはすばらしいものだというふうに私は感じていました。

あと、いろいろ、子育てとか防災とかというようなお話を聞いていたんですけども、子育て支援にしても、やはり小学校から上だけが子供ではない、ゼロ歳から1、2歳という小さい子供たちもいます。その親御さんたちがふだん子供たちが遊ぶ場所がないん

だよ、それは芝生の公園でも何でも、広場でもいいんだよ。ただ、そういう、子供たちがちょっと走り回れるとか、そういう場所が欲しいんだ。しかも、ここに造ろうとしているのは全天候型だから、雨が降っても子供たちを広いところで走り回らせることができる。そういうお父さん、お母さんたちというのは車で当然移動できるので、そういうところが市の中に1か所ぐらいあったっていいんじゃないかなということで、私はこれを面白いアイデアだなと思って聞いていました。

あと、防災にしても、あくまでもインターチェンジに近いところとなれば、災害が起こったとき、自衛隊の派遣や何か、あくまでも災害の中心基地となるのにはインターチェンジ周辺というのは非常にいいところだと私は思います。そういうことを考えていくと、今現在のこの考えは面白いんじゃないかなというふうに思っているところです。

あと、事業の収益という話もあったんですけれども、道の駅単体でこれが黒字になるのか赤字になるのかだけの判断でいいのかなというのは私は思っています。むしろ、道の駅ができる、要はランドマーク的なものができることによって那珂市がどれだけの経済波及を受けるんだと。市全体が、ここにお客さんが来ることによって、道の駅だけではなくて市全体がどれだけもうかるんだと、そちらをきちんと執行部のほうは提示していただければいいのかなと。なかなか難しい判断にはなるとは思うんですけれども、道の駅に立ち寄ってもらえる、その人たちが、例えば県民の森が新しくリニューアルされる、そこに寄ったとき、市内をぐるっと回ってそこに落とされるお金、それは道の駅だけではなくて、市内のほかの施設を利用したときに来るお金、文化財や何かも見ていったお金、その辺を全て経済波及として考えていただければ、決して道の駅の7億円という数字というのは少ないものじゃないんじゃないかなと、プラスアルファも出てくるし。

あとは、商品開発や何かという話もあったんですけれども、商品開発、今あるいろんなものって当然5年後、10年後、同じものを作り続けていく、同じものを売り続けるということはあり得ないと思うんです。生産者の方々、販売者とかそういう製品を作っている方々も次、次と新しいことを考え続けながら進んでいくと思います。むしろそういうスパイラルを起こさせていくこと自体のほうは私は大事なんじゃないのかなと思います。その一つが、今回はランドマークとなるものが道の駅だったのかなと思っておりまして、ただ、何かちょっとまとまりなくて申し訳ないんですけれども、ただ、執行部としてはもうちょっと検討していただいて、具体的な、もっと市全体がどういう効果を得られるんだというところまで踏み込んだ検討をしていただけると私はいいんじゃないかなと思っております。特に答弁を求めるような内容じゃないと思います。私の意見となっていましたんですが、以上です。

桑澤議員 すみません、ちょっと順番にお聞きしたいんですけれども、まず道の駅の事業自体が国の事業で30年前に始まった事業で、那珂市ができるのはもう35年たった後にできる

という事業です。正直言って、中身はブラッシュアップしてかなり変わった道の駅が出てきているというのはあるとはいえ、かなり当時の発想とはもう時代も変わって、今考えている様々な事情、経済事情全部変わってきている。さらに、これから先の20年、30年の先はもっと変わってくる。人口減少社会もちろんそうですし、人も車も減っていく社会に車でしか行けない施設をこれだけの大きなお金を投じる、その費用対効果をすごく私は心配しています。もし仮に、先ほどご意見、各議員ありましたけれども、失敗した場合、赤字になった場合に、我々の行政サービスの低下がないと言えますか。まずそこをお聞きいたします。

商工観光課長 行政サービスの低下ということがございました。まず、運営していく中で赤字になるかならないかというところは、やはり今お答えできるのは収支構造計算をやっていって、やはり赤字ではないですということの結果しかございませんので、そこにつきましては赤字になったときの行政サービスの低下というところを、今の収支構造の中では考えてはいませんということになります。

桑澤議員 大変申し訳ないんですが、仮に赤字になるということも想定しなければいけないと思うんです。こういった大型事業ですから、市民に対してメリットだけじゃなくてデメリットもちゃんと提示した上で、それでやろうというのであれば、それは市民の総意ですから進めていくべきだと思いますけれども、今のところメリットばかりが強調されて、本当に市民にデメリットも伝わっているのかというところがちょっと一つ疑問です。当然ながら、赤字になれば、先ほどお答えではなかったですけども、我々の税金から補填されることは間違いないわけですから、当然行政サービスに影響するのは目に見えている。だからこそ、必ず成功させなきゃいけないということですよ。

そういう意味でもう一つお聞きしたいのが、この先ほど収益、7億数千万円から損益分岐点が、果たしか現状で、ちょっと比較対象としていいか分かりませんが、とんがりはっととか芳野の直売所あたりの売上げは果たしか1億円かその半分ぐらいですかね、とんがりはっとは5,000万円ぐらいですかね、1億円ぐらいですか、それぐらいの規模だとして、7億円という、もちろん立地は違うにしろ、販売所は違うにしろ、7億円売るとなるとかなりの質と量を確保しなければ農産物、特産品なんかも売れないというか、売ろうと思っても物が無いというような状況に陥るんじゃないかと。これ、オープン当初から7億円という見込みでやるのか、それとも目標を7億円に設定して、最初は3億円、4億円かもしれないけれども、だんだん7億円に持っていくということなのか、非常に最初からこの数字はかなり厳しい生産ラインじゃないかなと私は感じておるんですけど、その辺はいかがでしょうか。

商工観光課長 ただいまのご質問ですけども、まず7億円という売上げに関しては当初からの売上の目標となっております。1%ずつ上昇するといった収支計算となっております。

また、直売所の精算、一般的な道の駅での直売所の割合という、やはり5割から6割

が直売所が占めているという状況になっておりますので、議員がおっしゃるとおり、それだけの出荷者が確保できるのかというところが課題にあるかと思います。そこにつきましては、やはり出荷者は当初は市場と生産組合と、そういったところで何対何でやっていきたいと思いますとか、そういった検討はしております。今の段階では、当初はやはり6割程度が出荷者の見込みなのかなと。それにつきまして、次年度やはりアンケート調査をやっていってどれだけ出荷希望の農家がいるのかというのを調査させていただきます。

私ども、今まで県内の複合型交流拠点施設道の駅と言われるところの視察というものはしております。実際に担当の店長であったり、市町村であったり、そういったところに視察を行っておりまして、やはり当初は皆さん、出荷者というものはやはり150人から200人ぐらいしか登録者数はいないと。でも、やはり売れるとなってくるので、どこの市町村、生産組合を立ち上げているところですけども、やはり年々増えていくと、300人、400人と増えていくんですよということで、そこに関しては、大体皆さん出荷者組合をつくるのは2年前ぐらいから始まるということなんです。私ども、令和10年の開設というものを目指しておりますので今あと4年ございます。その中で、やはりそういった出荷者組合に参加して、ご同意をいただける農家というものは今後も引き続き募っていききたいと、さらには担い手となっていたただける方にもやはり検討いただきたいということを今進めているところでございます。

以上でございます。

桑澤議員 確かに一生懸命特産の開発とか農家の支援なんかされているのは知っておりますけれども、先ほどお話もあったとおりなんですが、今現時点でそういった那珂市において目に見えるような売れるもの、あるいは質と量を確保した農作物というものが、まだこれからですよということであるならば、今あえてこの大型投資にリスクを冒すというよりも、せっかく県の植物園がリニューアルされる、そこに対して皆さん何か、あそこを利用する、あそこに直売所を置くとかという発想はないのかなと。むしろそのほうがリスクは少なく済むし、あそこでまず農家の支援、あるいは特産品の開発の時間を稼ぐための期間。それはやっぱり、あそこはもう2025年度オープンするわけですから、そこに対して、市としてしっかりと県とタッグを組んで、あのエリアでまずは農家の販売支援とか、そういったものをやってみる。そこでまだ育っていないような特産品なんかも売れるようになってくる、そういう下地をつくっていくということが大事なんじゃないかなと。そうすることで、その先にもしかしたら道の駅があるかもしれない。まずは、しっかりと農家の販売ルートとか販売する質と量を確保する時間を稼ぐ必要があるんじゃないかなと。それからでも遅くはないんじゃないかなと私は思うんです。そういう、あそこを利用する発想というのはないんでしょうか。

商工観光課長 ただいまのご質問ですけども、先ほども副市長のほうからお話があったかと思いますが。まず道の駅をインターチェンジ周辺に建てる意義というところで、確かに農

産物の販路拡大というところも一つの目的ではございます。ただし、やはり道の駅を契機として、あそこに建てることを契機として那珂市を知ってもらう。那珂市の魅力発信であったりというところがやはり一番の大きなところなのかなと思っております。そうやってきたときに、那珂市の魅力を発信するということを考えますと、県の植物園の中でそういったものをやっていくのではなく、那珂市、道の駅として魅力発信、もちろん農産物だけではなくて那珂市の魅力を発信するというのが道の駅の整備のまた一つの目的となっておりますので、そこはやはり県の植物園の隣とか隣接地ではなく、あそこに道の駅を整備するということに意義があるのだとは思っております。

以上でございます。

桑澤議員 那珂市の魅力を発信するのはもちろん大事なことで、大切だと思います。ただ、僕が言っているのは費用対効果の部分が重要だということで、赤字を垂れ流してまで那珂市の魅力を発信する必要はないと思いますし、そもそも那珂インターチェンジを開発する必要があるのかという部分も含めて考えるべきだと思います。基本的に、都会は別として、どこのインターチェンジも田舎なんです。どこのインターチェンジもほぼほぼ僻地であって、そこから都心に向かっていくような場所。別に那珂市だけじゃないということが現実的に、全国的にあるかと思います。だから、無理してどうして開発する必要があるのか。むしろ、まだまだ市内において市街地の整備が未発達な部分はたくさんあるわけで、ないものをねだるのではなくてあるもの、まだ伸ばさなきゃいけない、伸ばす必要があるものを僕は伸ばすべきであると思うんです。だから、そこに今チャレンジする、大きなリスクを冒すほど魅力はないと僕は思いますので、その辺も含めて今後考えていただければと思います。

以上です。

鈴木議員 道の駅で、今ふるさと納税のほうも那珂市の収入というのは減ってきている、特産のものが、選ばれていないという現実だと思うんですけども、道の駅ができるということでそれが選ばれる理由になるというのはどんな根拠があるのかなと。売れるものを作っていますというようなお話だったと思うんですが、今でさえ、現実でさえ減ってきている中で、道の駅が作ったから、商品開発していますというのでなぜ選ばれるものができるという、その根拠を教えてください。

商工観光課長 すみません、ふるさと納税で選ばれるということは一言も言っていないかなとは思いますが、ただ特産品の開発、先ほどお話ししたのも、ふるさと納税の仕組みとしてそこに自販機の発券機を置いて、その場でふるさと納税がすぐできるような仕組みづくりというものは考えていますよというお話をしたんですけども。

鈴木議員 すみません、質問の仕方が悪かったかなと思うんですけども、今現在選ばれる特産物がないという状況の中で、道の駅ができたからということで選ばれるものができるのかという、その根拠というのが見えてこないのが不安になっているんだと思います。

政策企画課長 ただいまのご質問はふるさと納税のほうで那珂市の特産品、そういったものを今返礼品としてご紹介して、納税に対する返礼品ということでやっているところだと思いますけれども、これのつながりということで、道の駅のほうの特産品の開発、新たな商品づくり、先ほど商工観光課長がおっしゃったとおり、うまいもん会議であったりとか、そういったところで特産品をこれから作っていきましょう、考えていきましょう、加工品なんかも考えていきましょうということで、そういう那珂市としてのオリジナル性のある商品開発ができれば、今後ふるさと納税のほうに影響が出るかなというふうには考えております。

以上です。

鈴木議員 その売れるものというのが、私はまずはそっちが大事なのかなというふうに思っております。形をつくるよりも、何をまず売っていくのか、だから収入も増えるというふうに思うんですけれども。

副市長 すみません、ありがとうございます。

ふるさと納税の話なんですけど、要するに課長が言ったのはその場で発券機みたいなのがあって、ほかの道の駅でやっているところもありますけれども、実はふるさと納税って別に特産品ばかりではなくて、最近売れているのは、ふるさと納税ではない、ふるさと納税はもう過ぎちゃっているんですね。

鈴木議員 特産品を作れるという根拠というのが、今までないというふうになっている中で、何十年もないとなっている中で、じゃなぜ道の駅を造ることで特産品の売れるものができますという根拠というのが。

副市長 申し訳ありません。

その商品開発、これからやることになっていると思います。例えば、鳴門道の駅というのが四国のほうにあるんですけれども、ここもサツマイモの商品で売っています。鳴門の道の駅で売っている商品は全て新規開発商品です。それも短期間のうちに作って、非常に売れているということです。それが那珂市に当てはまるかどうかは別にして、商品開発についてはそういった例、今私のほうでお願いしている船井総研が関わってそういった開発をやってきたんですけれども、そういった例を参考にしながら、売れるものについてはしっかりと商品開発をやっていきたいというふうに考えています。期間的には、先ほど言ったようにまだ4年あるので、ほかの例から見ても十分期間はありますということでしたので、頑張っていきたいというふうに考えております。

鈴木議員 魅力を発信する拠点というふうにおっしゃっていたんですけれども、今の時代、SNSがある時代に拠点というものが必要になるものなのか、そのご意見をお聞きしたいんですけれども。

商工観光課長 議員おっしゃるとおり、SNSで皆さん発信されて、それを見てそこに行ってみようというふうに思うということが実際の流れなのかなとは思っています。そういった拠

点が必要なのかといったところで、先ほどからの特産品というところもそうですけれども、まずはそういったものが集まっている場所というのが、まず市外から来ていただいたお客様たちがそこに立ち寄れば、那珂市のいろんなものに触れられる、体験できる、そういった施設づくり、魅力の発信というところも必要なかなと思っております。ですので、市としましては、やはりそういった拠点づくりが必要だということで今道の駅を進めているところでございます。

鈴木議員 答えていただいたんですけれども、私の中ではちょっとあまり拠点が必要かというのがまだちょっとよく分かっていないことと、あと子育てをしている身として、すごくお金がかかることをしようとしていることで、でも実際家計は苦しい中で不安になる気持ち、市民の方々がそんなお金をかけるのであればもっと生活を楽にできないかというような不安な気持ちというのが私のところに届く声なんですけれども、そういったことに関してどのように大丈夫ですよというか安心の言葉というか、まだそれが私は見えていないと思うんですけれども、どうお考えでしょうか。そういった市民の方々に対して。

議長 鈴木議員。今日は道の駅の進捗状況なので。すみません。

鈴木議員 今の質問は道の駅に関しての不安な声というか、市役所の執行部のほうには届いていらっしゃるんでしょうか。

商工観光課長 そういった道の駅の整備によって他の行政サービスが低下するでしょうかという不安という声はないんですけれども、そういったお声は。道の駅、賛成だ反対だというような意見はあるかもしれませんが、それに伴って住民サービスが低下するんで不安なんですよという意見は、そういう意味なのかもしれませんが、反対賛成という意味も。

大和田議員 なんかそもそも論みたいな話になってきたのでちょっと聞きたいんですけれども、そもそも那珂インターチェンジ周辺の開発だという話で動いてきて、その中に道の駅という話。そういった道の駅の赤字になるとか何とかを民間の企業が張りついて、そういった一つのまちづくりとしてというお話から何か始まったんだなと思っておりませんが、その話が全く見えてこないというところだと、全くというとおかしいかもしれないですけれども、見えてこない。道の駅のビジョン、里山というのは見えましたが、そのインターチェンジ周辺の開発についてのビジョンが見えないので、このそもそも論が多く出るのかと思うんですけれども、そこはどうなっているのでしょうか。

副市長 すみません、ありがとうございます。

道の駅、那珂インターチェンジ周辺の開発ということ、まちづくりということで今まで議論されてきたんだと思います。先ほど言いましたように、多様な機能を入れたインターチェンジ周辺開発をやろうした経緯が昔構想としてあったということで、結局はできなかったわけなんですけれども。今の時代、本当に、VUCAの時代とか言われますけれども、激動の時代と言われて、先が見えない時代と言われております。そういった中で、何

か全てのものをつくり上げるのではなくて、やはり私はできるものをやっていく、チャレンジしていく、スピード感を持ってチャレンジしていくということがこの後の生き残りではすごく大事だと思っています。大井川知事もここ10年が大事だと言ってもう5年が過ぎましたけれども、スピード感を持ってできるものをやっていくんだということです。先ほどから議論があるように、人口減少、毎年80万人減っています。山梨県が1個なくなっているようです。毎年。そういった激動の時代の中で、いかに、もうチャンスが長くあるわけではなくて、チャンスをつかみ取るためにもチャレンジしていくということはすごく大事なんだと思っています。

先ほど言ったように、できるものからやっていく。それが一つは道の駅であり、今検討しているインターチェンジ周辺北側の開発だと思っています。そういったものをやることで、先ほど誘客の効果が分からないと言いましたが、例えば道の駅を造ると、すぐ脇にはコンビニができたりとか、要するに通りが大きくなることでいろんな産業が入ってくる可能性というのが非常に強くなるわけです。何もなければ道路を造っても何も来ません。やっぱり拠点となって交通量が増える、お客さんが増えるということで、それに関連してまたお店とかができてくる。やっぱり拠点というのはそういった誘客効果があるんだと思っています。そういったものをしっかりつくっていく、できるものから今しっかりやっていくということが大事だと思っています。そういった流れの中で、インターチェンジ周辺が、この後都市計画であるとか農振農用地であるとか、そういった見直しもししっかりやっていきたいと思っていますけれども、そういった流れの中で街の活性化につなげていけるように頑張っていきたいというふうに考えております。

大和田議員　というわけで、それもそうだと思うんです。今しかできないことをやるというのはいいんですけれども、それは点でしか見えていなくて、ここをやったら、じゃここが来るだろうというのしか見えていないんです。だから、なんかそもそも論になってしまう。だから、どういう道の駅を中心としたまちづくりとかインターチェンジ周辺の開発だということを我々にお示しいただきたいと思うんですが、市長、なかなか市長答弁がないもんですから。

市長　すみません、本当に議員の皆さん、ありがとうございました。いろいろお話を伺っています。

私が令和2年度にこの道の駅をやろうと思ったのは、これまでずっと県会議員として県内、あるいは全国を見てきました。そういった中で、那珂市は発展できる可能性が十分にあるのにそれを生かし切れていない、そのことをずっと感じて、それは特にインターチェンジ周辺の開発です。今副市長からもあったように、何十年来那珂インターチェンジを利用して地域を活性化しようという思いがあったにもかかわらず実現できなかった。そういうものでインターチェンジ周辺、土地利用が非常に厳しかったんでそういうことができなかったんだと思うんです。行政が積極的に動くことによってそのハードル下が

るということに気がつきまして、行政主導で何ができるのかということ考えたときに、まず道の駅を突破口としてあの周辺の開発を進めていこうというふうになったと思います。これが本当に粗々な今日までの経過です。

それで、あと道の駅についていろいろお話が出ましたんで、たくさんの心配があると思うんです、赤字になったらどうするんだとか。ただ、私はやっぱりこれから未来に対する投資だと思っています。要するに、先ほどブランドマークという言葉が出ましたけれども、若い学生なんかに聞くと、那珂市何もないんだよな、ほかに自慢できるものないんですよ。本当は額田城跡とか静神社とか洞の上公園とか、立派なものたくさんあるんですけれども、やっぱり何か目立つものがないということが、子供たちの中にも誇れるふるさとなんだというなかなか意識が根づかない。

あとは、やっぱり那珂市を売り出さないと駄目だ。企業誘致にしても交流人口を増やすにしても、例えば東京辺りにいくと那珂市って言っても分からないんです。ひたちなか市ですか、那珂湊ですか、やっぱり那珂市って出てこない。これはやっぱり那珂市がもう少し頑張って情報を発信してそういうものを出していかないと駄目なんだなというふうに思っていました。ですから、道の駅はその一つだと思っています。そして、20年後、30年後に向けての大きな投資。

特産品開発の話もありました。これ、これまでも農家の皆さんも努力して、事業者の皆さんも努力してやっています。ただ、道の駅ができるということでさらにブラッシュアップしようということで今エンジンかけてもらっています。例えば、ぐるぐるパンはもう世界に名が通ったパンですよ、那珂市の干し芋もおいしいです。全国に出しても全然引けを取りません。だけれども、道の駅ができるということを視野に入れたんでもう少し馬力かけようと今一生懸命頑張ってもらっています。そういうふうになると市内の産業にもいい影響が出てくる。

そして、例えばふるさと納税の話もありました。境町が30億円、40億円のふるさと納税、上げています。多分、境町を売り込んでからです。例えば、隈研吾さんの建築を使って市内に5つも6つも建物を造りました。隈研吾さんの建物を巡るツアーもあるんです。たくさんの方が境町に来る。あと、境町は、これは着眼点が非常によかったと思うのは、大きな災害のときに被災した市町村では寄附金なんかを受け入れるだけの余裕がない。では、代理受納します。手を挙げました。全国で初めてです。境町というのはいいことやっているんだな、やっぱり境町はすごいな、そういうのがきっと境町のふるさと納税のリピーターの多分原点にもなっていると思うんです。

そういうことを考えれば、やっぱり那珂市を売り込まないと駄目だ。道の駅が決しても先発ではありません。後発です。でも、後発だからこそいろんなものを見てこられる、いろんところ見てこられる、いいところを、そういうものを加味して、しかも、里山という言葉はやはり議員ご懸念のとおり、山じゃないよなと、どこに山があるんだと思

われるかもしれない。やっぱりイメージだと思うんです。原風景、昔の那珂市の原風景、もしかしたら県北につながる原風景、そういったものをあの場所で作くり出すことによって存在感をつくっていく、他の施設と差別化をしていく、そういうことで選ばれる道の駅になっていく。

もう一方では、やっぱり県北の玄関ですから、大子町も常陸太田市も常陸大宮市も一緒につながるような機能もつけていく、そういうことでこの地域につくる存在感をつくっていく。防災機能もそうです。先ほど、やっぱり高速道路のそばにあるということで、大きな災害のときに自衛隊支援の基地になる、後方支援、そういうバックヤードができる、これ大事なことです。そういうことも考えれば防災機能も必要。

あるいは子育て支援、これも身近なところに多分欲しいんですよね、みんな。そうなんです。でも、大きなお金をかけて造れるときにつくれるものを造る、全天候型の、やはり雨が降っても遊べる場所だってほしい。道の駅のアнкケートを取ったときに、子育て機能をぜひというのがものすごく多いです。やっぱりお母さん方、お父さん方、そういう機能を求めている。そういったものをできるだけ盛り込んで、持続可能な道の駅を造っていききたい、そういうことになると思います。ちょっと事務方からはなかなか遠慮しているんなこと言えないと思うんですけども、私はそういう立場なんで、思いを皆様に伝えたいと思っています。そういうことで、20年後、30年後に那珂市がきちんと残っていけるような道の駅を、しかもきちんと精査をして、赤字という言葉は非常にいい言葉じゃないんですけども、市民に負担をかけないような、作れるものをきちんとつくってそういう計画を進めていききたい、そして、さらには、それは突破口であって、あの周辺の開発につないでいく、これ当然のことでもありますので、そのこともお約束したいと思っています。

以上です。

大和田議員 道の駅を突破口としてと言うんですけども、道の駅もこれからブラッシュアップしていくと思うんです。その外側、今度はインターチェンジ周辺の開発ももうちょっとブラッシュアップして提示していただきたい。その辺の、外には、先ほど皆さんが言うように、那珂市全体が、子育てがどうというんだったら子育てこうだよ、こんなふうになるよ、道の駅を中心としてこうなるんだよというのをいま一度ブラッシュアップして提示していただきたいなと思います。よろしくお願いします。

寺門厚議員 皆さんからいろいろ、たくさん今意見が出ているんですけども、私も最初から大和田議員と同じように、道の駅単体ではありませんよと、当然インターチェンジ周辺の活力あるまちづくりですから、まちづくりなんで、そちらの姿が全然具体的になっていないんで、今市長のほうからもお話がありましたけれども、専門の開発推進室までつくって稼働して、令和3年ですからもう3年目になるんで、道の駅単体じゃなくて、周辺のまちづくりをどうやってやるんだ、どうやってイメージしていくんだというのもぜ

ひとも出していただきたい。そのために組織がつくられているはずなので、はっきり明示してありますよ、設立当時のときに。そういうことできちっと出していただきたいんです。市民の皆さんにもそういうふうに示していただきたい。ぜひお願いしたいと思います。

今、今日出されている中で道の駅の収益の点なんですけれども、やはり7億7,000万円ぐらいは年間売上げを上げないといけない。そのためには土日だけ、交通測量だけだと、国道もありますけれども、車だけだと土日がやっぱりメインになっちゃって、平日の売上げというのは極端に減るんです。現在、どこの道の駅もそうです。そこをどうやって埋めていくかというのが全然出ていませんよね。土日だけで7億数千万円年間稼げるわけじゃないんで、それをきちんと示していただきたい。そうじゃないと、当然運営開始して3年、4年たたないで赤字になって税金繰入れだということになっちゃうんで、ぜひともそこは避けた計画をつくっていただきたい。

もう一つは、道の駅、これで最後にしますけれども、今、駅と言いますけれども、乗り物って車だけじゃないんで、JRもありますし、そのほかにも今、自動車が空飛ぶ時代なんで、飛行機利用者も、これ遠方から取りにいった方がいいと思うんです。だから、広く考えていただきたいんです。ということで、広くお客さんと呼び込む、そういった仕組みもつくっていただきたい。

それともう一つは、植物園のリニューアルとどうやって連携していくか。もともと道の駅はそっちのお客さんをちゃんと取り込むよという話から始まったと思うんです。そこがすっぱり抜けちゃっているんで、そこもきちっとつくっていただきたい。

以上でございます。もう時間も時間なんで、今のは要望ということで、きっちり、次回報告いただくときに盛り込んでいただければというふうに思います。

以上です。

花島議員 私のほうから幾つか。

1つは、里山の話なんですけど、副市長がおっしゃったこと、市長がおっしゃったこと、皆さんの質問ときに私も考えていたんですけども、ちょっとイメージが、里山って建物のイメージですかね。もし建物のイメージだったら、それはそれで結構です。あと、全体のイメージ、里山のイメージを考えるのだったら、むしろ里山っていうのがあるのは常陸大宮市とか常陸太田市ですよ。だから、それはやっぱりちゃんと、単に県北への通り道とかじゃなくて、通り道の場所を利用してそういうところとつなげていくというようなイメージで考えていただきたいと思います。

それから、最初に選挙のちょっと前に私たちの政党でアンケート調査やったんです。そうしたら、道の駅には賛成の声のほうが多かったです。ただし、一方で反対の声もたくさんあって、その反対の声のやっぱり一番の心配事は採算性です。ですから、それは僕も一緒です。私は、前にも言っていますように、賛成反対決めていなくて、より具体的

な計画の段階で賛否を決めると言っていましたが、それは今も変わっていないです。それから、防災拠点として集中的に大きな場所があるというのは、私は非常に大事だと思っていますんで、それは絶対、造るんだったら欠かせないと思っています。

それと、今答弁できなくて結構ですが、周辺の道の駅だけじゃなくて友部のサービスエリアとか守谷のサービスエリアがありますね、その収支がどうなっているのか、どのぐらいの車なり人が入って収支がどうなっているかというのは、今日皆さんの話を聞きながら急に気になったので、ぜひ考えていただきたいとか調べていただきたいと思います。

あと、那珂市には隙間を埋めるような、特産と言っていいかどうか分からないけれども、あるんですよね、干し芋やら、ぐるぐるとか、木内酒造なんか世界的ブランドですよ。だから、普通、飲まない人は飲まないけれども飲む人は飲む、木内酒造はね。それで、すごく採算成り立っているんで、そういうものを生かしていくことが第一かと思っています。

それと、車で行けない人は行けないというのは確におっしゃるとおりですけれども、実際には車社会はまだ当分変わらないと私は思っています。だから、それである程度特化するの、しょうがないというのは変な言い方ですが、当然の成り行きかなと思っています。ただし、そうじゃない方に対する配慮も若干必要かなと。

以上です。私の意見を言っておきます。

原田議員 例えば、言いたいことで言いますと、結局道の駅を造るということによってかなりの予算、我々の市民の税金というのが使われる中で、それでもチャレンジするということは非常に大事だと思うんですけれども、市民の税金を使ってチャレンジするとなると、やっぱりそこにちゃんとしたビジョンとか根拠というものがないと、それはちょっと無謀なチャレンジされたんでは市民としては非常に困ってしまうなというところが率直な意見です。

子育て機能のところなんですけれども、鈴木議員とかもおっしゃっていましたが、やっぱり市民の方の声、非常に厳しい声が上がってしまっていて、やっぱり子育て機能を道の駅に持たせるということをおっしゃっていますが、市民の方から、やっぱり常陸太田市とかひたちなか市、常陸大宮市とかから那珂市に引っ越してきた方、実家がそっちにあって引っ越してきたという方で若い世代の方は、那珂市に引っ越してきて失敗したって、そういう声も非常に多く上がっているんです。那珂市役所の人に誘われてこっちに移住したけれども、とても失敗したと、そういう声も上がっている中で、本当に子育て支援というのが全天候型の遊ぶ施設、那珂市って、僕は秋田県出身だから非常に天気もいい中で、本当に市民のニーズに合っているのかなというところ、こういうところをちゃんともう一回調査していただきたいなと思ひまして、協働のまちづくりという理念もありますし、協働のまちづくり推進条例というのも那珂市は出してちゃんとうたっているの

で、やっぱり3年前に取ったアンケートと今の市民の道の駅に対する関心の高さというのは全く別だと思うので、今もう一度改めて市民の方に道の駅というものの、これがどういう施設なのかというのをもうちょっと具体的に出して、それこそ桑澤議員が言っていたようにメリットとデメリットというものをちゃんと示してアンケートというものを取って、それから開発に動いていくというふうにさせていただきたいなと思うんですけれども、その辺はいかがですか。もう一度アンケートを取っていただくという、そういう考えとかはありますか。

議長 原田議員、すみません、今日は複合型交流施設の進捗状況についてやっていますので、アンケートどうのこうのというのはこの議題には、すみませんけれども。

原田議員 分かりました。それは僕の要望として。

議長 要望としてください、それは。

小宅議員 すみません、11ページで2番、外からの一流の視点って非常に何か鼻につく言葉が出ていますけれども、一流というのは何なんですか、何をもって一流とおっしゃるのか、そこをちょっと伺いたいと思います。

商工観光課長 鼻につくということでしたけれども、実際に何々賞を受賞したとか、そういった方に何とかお声をかけて、那珂市の目玉となる商品づくりにご協力がいただけないかということで声かけをしているところでございます。

以上でございます。

小宅議員 さっき船井総研という言葉が出ましたけれども、どこか具体的に決まっているということではないということなんですか。

商工観光課長 船井総研は、本年度この委員会を運営していくに当たって、資料の作成とかしえていただいているところでございますけれども、船井総研からこういったシェフがいらっしやいますよとかパティシエがいらっしやいますよという提案はまだございません。

以上でございます。

小宅議員 すみません、船井総研というのはコンサルとして入っていらっしゃるということですか。

商工観光課長 おっしゃるとおりです。

笹島議員 ちょっと短く、1点だけちょっと聞きたいんですけれども、いろいろ聞きまして、市役所がチャレンジするという非常に市民の税金使って随分リスクが高いことやっていただけるんだなと思って感心していたんですけれども、単純な話、常陸太田市とか常陸大宮市とか、スーパーマーケット、直売所、競合が多い中で、本当に大丈夫かなと。もう一つ、皆さん言っていた、後発組で大丈夫かなと。あとは特色、特徴がなくて大丈夫かなと。大きな話なんですけれども、何かすごく心配になっているんです。いろいろ説明されて、大丈夫だから任してくれと言わんばかりの話していたんですけれども、ただ、皆さんのお金じゃないですもんね。市民の税金をあれして、市役所、そんなリスクが高

いことやっていいのかなと思って。ほかにやることあるのかなと思って。子育てとか、それから、道路環境悪い、下水環境悪い、いろんなこといろいろ、まだまだ市民が要望していることあるんで、そんなこと、もちろん限られた予算で、200何億円で、500、600億円になるわけないもんね。むしろ、今住民を増やして、あとは今言っていたことやっていただければ何か住民それで満足しているのかなと思って。すみません、私の考えなんで別に答弁要らないですけども、もうそろそろ終わりにしたいという、みんな、顔つきなんで。

以上です。

議長 要望でよろしいですね。

笹島議員 そうですね。

君嶋議員 先ほどから道の駅に対しての予算ということで、皆さん心配はしていると思うんで、そのお金の出どころ、どこからどのようにお金をつくってくるのか、そこだけちょっと確認させていただきたいと思いますので、説明をお願いします。

商工観光課長 まず、施設の建設に当たりましては補助金、ご説明しているデジ田であったり社総交という補助金等を活用しながら、地方債を有効に活用し平準化を図っていききたいと。また、起債が当たらない財源につきましては、特定目的基金等を積極的に活用するなどをして財源の確保を図ってまいりたいということを考えております。

以上でございます。

君嶋議員 そうすると、国からのいろいろ、国交省とか、そっちからのお金というのは入ってこないのか。そこだけちょっと。

商工観光課長 すみません、短く言ってしまったんで、社総交といったのが国の補助金であって、デジタル田園都市国家構想交付金というものは内閣府の補助金になってまいります。そういった補助金のメニューで基本計画の中では7億6,000万円程度補助金の確保が見込まれますということでご報告しているところでございます。

渡邊議員 最後にすみません、私も要望なんですけれども、来年度基本設計を行うという予定でしょうから、先ほどの花島議員も、私もいろいろな調査の話をさせていただきました。ほかの議員もいろんな意見を申し上げたと思いますので、ぜひその辺を含めて、基本設計の中できちんと精査していただければと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

榊原議員 すみません、終わりそうで終わらなくて申し訳ないです。

皆さん、ちょっと手厳しいご意見、質問とかが多くてあれなんですけれども、ちょっと私、逆の観点を実は持って、賛成でも反対でも実はなくて、植物園のリニューアル含みで道の駅ができたときに、バードライン1本になるんです。那珂インターチェンジって奥久慈観光拠点の玄関口であったりとか、今海浜公園はちょっとインターチェンジが変わっちゃったのかなと思うんだけど、あと常陸太田市なんかだと竜神峡とかイチゴ

狩り、ブドウ狩り、梨狩りなんていうのもあったりとかして、非常に将来に向けて僕、夢が広がるような考え方もあってもおかしくないと思うんです。そこに対して道の駅を造るに当たって、子育てとか交通結節とか、あと防災というところの機能というのは、これハイブリットの機能としてつけるということは、渡邊議員として僕は賛成なものですから、そういうところ含めて、ちょっと夢を描くというところを考えたときには、非常にいろんなやっぱり案が出てくると私は思っています。実際のところ、うまいもん会議でブランド認証でどうのこうのと入言っていたんですけれども、今ちょっと誰がおっしゃったかは忘れちゃったんですけれども、木内酒造のお酒であったりとかぐるぐるのクリームパンであったりとか、干し芋とかって言っているんですけれども、これは別に行政側が作ってくれていて作ったものではなくて、あくまでも民間が結局売れるものを作らなきゃ商売成り立たないというところで作っているものだから、そういうところも含めて、とにかく、この企画によって夢を描けるような僕はプランをつくっていったほしいなというのが要望です。

以上です。

議長 すみません、ほかにはないので、終了といたします。

暫時休憩いたします。

執行部は退席願います。ご苦労さまでございました。

休憩（午後3時29分）

再開（午後3時30分）

議長 再開します。

続きまして、その他になります。

事務局より事務連絡があります。

次長補佐 それでは、令和6年度の予算のほう为上程されたと思うんですけれども、議会費の予算について、あらかじめ説明のほうをさせていただきます。

まず、議会費なんですけれども、総額で2億267万9,000円となっております。前年比140万円の減となっております。事業としては5つの事業になりまして、まず一番上、議員人件費、こちらが1億4,005万5,000円。こちらに関しましては、議長、副議長、議員の報酬等になります。市議会議員の共済金負担金のほうが減となっておりますので、トータル減となっております。

続きまして、職員人件費4,397万1,000円。こちらは、事務局職員の人件費等となっております。

続いて、議会運営費1,337万4,000円。こちらにつきましては、議会の事務、議会運営に関して、タブレット等の費用となっております。令和6年度、議長車が車検の年になっておりますので、そちらの関係で増となっております。

続きまして、議員研修事業、こちら307万9,000円。こちらにつきましては、視察、議

員勉強会等の研修の費用となっております。前年度同額となっております。

最後になりますが、議会広報事業159万9,000円。こちら、議会だよりの印刷が主な事業となっております、令和6年度、「ぎかいのおはなし」を発行しますので、その分増となっております。

次のページをお願いします。

債務負担行為になります。

会議録の作成、議会だよりにつきましては、令和7年度に事業がスムーズに行われるよう令和6年度中に契約を行いますので債務負担行為のほうを設定しております。

以上です。

議長 この件については以上といたします。

以上で全ての議事が終了いたしました。

これにて全員協議会を終了いたします。ご苦労様でした。

閉会（午後3時32分）

令和6年5月28日

那珂市議会議長 木野 広宣